

大会コントローラー報告

コントローラー 柿並 義広

コントローラー補佐 竹沢 聡

本インカレは、いろいろな意味で今後のインカレのあり方を考える分岐点となったインカレであろう。前回の愛知インカレが終了した時点で次回（つまり今回の矢板）のインカレ開催が決定していないという非常事態であった。これは、インカレの主催団体である日本学生オリエンテーリング連盟の幹事長が決まっていなかったため、組織上インカレ開催を決定することができなかったためである。そのため規則上2年前には組織されるべき実行委員会は、幹事長が決定した6月まで組織することができなかった。そのため、様々な準備が遅れて、学生諸君には迷惑をかけてしまった部分はある、その点はお詫びしたい。しかし、インカレの主催は学生である皆さんであるため、日本学生オリエンテーリング連盟がきちんと運営されていかないとインカレを開催できないということをお肝に銘じてもらいたい。

本インカレでは今後のインカレのあるべき姿を模索して工夫した部分はいくつかある。また、本インカレで、生じた重大な問題点について後述したい。

インカレ永続的開催

栃木県では日光地区以外ではインカレがおこなわれてこなかった。これは栃木県が非常に渉外が難しい地区であり、インカレを開催することを許可されなかったからである。今回は、粘り強い渉外の結果、開催にこぎつけた。ただ、まだ実行委員会が正式に組織されていない時期で、地図調査をおこなうことができるまでの渉外までは、進んでおらず、これが正式に完了するまで調査をおこなうことを休止することとした。これは今後もこの地区でインカレを開催するための配慮であったが、地図調査のスケジュールに影響を及ぼす結果となってしまった。また、インカレ後の継続的な渉外も重要となってくるであろう。地元との関係を継続的に築くことで、次回以降のインカレ開催がスムーズに進むと思う。

インカレのあり方

インカレとはどのような大会であるべきなのであろうか？これは主催者である皆さん一人一人が考えて欲しい。インカレの参加者数はついに900人を切ってしまった。肥大化したインカレ運営をスリム化するのも今回のインカレの目標であった。本インカレの実行委員の数は59名であった。しかし現在のようなインカレのスタイルではこれ以上減らすことは難しいであろう＝もっと運営をスリム化するには思いきったインカレ改革が必要である。選手権クラスを特別扱いしない、演出を簡素化するなどがあげられるだろう。今後は、競技に直接関係しない部分（演出等）で皆さんの協力が必要となってくるであろう。

また、選手権クラスの実力差も競技人口が減ったことにより、相対的に広がったように思

う。リレー3人制も含めて、競技形態を考えなおすことも必要になってくると思われる（次回以降のインカレでは選手権で人数が減ることとなった）。

コース距離

男子選手権クラシックにおいて、規定より短くなってしまった。規定 80 分にたいし、71 分 34 秒であった。1 割以上も短く、体力を問う課題が不十分であった。また、リレーにおいては男女ともに長くなりすぎてしまった。男子規定一走者あたり 50 分に対し、60 分、女子規定一走者あたり 45 分に対し、60 分であった。男子で 2 割、女子で 3 割以上も長くなってしまった。これだけ長くなってしまうと特に女子においてはクラシックと同様の課題が問われる結果となり、リレー本来の課題とは異なるものになってしまったことはお詫びしたい。こうなってしまった原因としては、十分な試走がなされなかったこと、会場レイアウト上これ以上短くすることは難しかったこと（特に女子）、実カ校の失格等が挙げられる。男子では 27 校中 17 校（63%）完走、女子で 24 校中 16 校（67%）であった。例年と比べて競技時間が長くなってしまった分、少なくなってしまった。

併設リレー成績確定遅れ

併設リレーにおいて成績確定が非常に遅れてしまった。これはシステム障害に備えて用意した 2 系統のシステムが両方とも落ちてしまったためである。最終的にはビデオカメラで撮影していた画像をもとに処理した。バックアップのシステムのまで動かなくなってしまったことは全くの予想外であった。このようなことは頻繁にあることではないと思われるが。

バスルートミス

選手権スタートへ向かうはずのバスが 1 台間違っで会場に来てしまった。担当者が気付いて選手が降りることはなかった。バスの運転手には担当者から指示してあったのだが、間違われてしまった。会場付近で選手権の選手と交差する部分があるが、時間的にはやかったため接触することはなかったため実質的な問題はなかった。

チャレンジクラスコントロール誤撤収

より多くのオンエンティアに開かれたインカレを目指し、併設大会を重視しチャレンジクラスを設ける等した結果、参加者はクラシック 220 名。リレー54 チーム、スプリント 26 名でまずまずの参加者を確保できた。今後の学生数減少を鑑みると、併設大会の参加者確保はインカレの継続的な開催に経済的に貢献するものであろう一方で、競技中にコントロールを撤去してしまい一部併設大会参加者にご迷惑をおかけしてしまった。併設大会はどうしても選手権とのかねあいスケジュールやコース回し等で後手に回るところがある。今後の課題としたい。

リレー地図置き場

リレー地図置き場において、距離・コースパターンが事前に見えてしまうというトラブルが発生した。実行委員会で気付いた後、すぐに見えないように置きなおした。このような事態が起こった原因の 1 つに地図をビニール袋に入れたことがある。地図をビニールに入れることになったのは、地図印刷においてミスがあり、PP 加工（ポリプロピレン加工）が間に合わなかったためである。地図を入れたビニール袋が地図より大きく、地図を奥まで入れて、半分に折った時にちょうど距離・コースパターンが見える状態になってしまった。この遠因として全体的な準備の遅れがある。

立入禁止区域

クラシックの日に、立入禁止区域になっている場所に入って応援している大学があった。そこから旗をもってゴールに向かう選手と併走していた。OB2 名、現役 1 名であった。その場所に行って応援していいかどうかを実行委員に問い合わせたらしいが、その実行委員の説明が悪く、勘違いをしてしまったようだ。

そのため、それだけで、失格その他の処分をするのは難しく、また、会場から見える場所であり、併設大会のゴールからの帰路からわずかに入っただけの場所であるため、競技に大きく影響はないだろうとの判断から嚴重注意にとどめた。